

## 会議録

会議名 平成 26 年度第 1 回八王子市文化財保護審議会

日時 平成 26 年 6 月 5 日 (木) 午後 6 : 00 ~ 午後 7 : 30

場所 会議 八王子市役所 701 会議室

出席者 【委員】 相原悦夫会長・加藤哲副会長・池上裕子委員・岩橋清美委員・  
神立孝一委員・菅原敬委員・津山正幹委員・中村ひろ子委員・  
野嶋和之委員・堀江承豊委員・本間岳人委員  
【事務局】 田島巨樹課長・金子征史主査・山本泉主事

欠席者 阿部朝衛委員・鹿島繭委員

議題 協議事項 (1) 高尾駅舎について  
(2) 甲州街道イチョウ並木について  
報告事項 (1) 平成 26 年度予算と事業について  
その他

公開・非公開の別 一部公開

傍聴人 0 人

配布資料 1. 第 1 回文化財保護審議会次第  
2. 協議事項・報告事項資料

会議録 要点筆記とする。

## 開会

相原会長 11名出席という事で会議は成立しております。署名委員は堀江委員にお願いします。

## 協議事項

### (1) 高尾駅舎について

相原会長 事務局から概略説明をお願いします。

金子主査 高尾駅北口の駅舎については1月の審議会では話題にするのと同時に、3月に委員の皆さまに視察していただいた。駅舎は昭和2年に新宿御苑に造られた大正天皇の大喪用の仮停車場を移築したものであり、貴重なものであると認識している。そこで、現時点での研究成果を説明し、今後駅舎をどうするべきかを検討していただきたい。本日は「八王子の鉄道展」を企画した小林央氏より説明させていただく。

小林学芸員 建築に至る過程、新築完成時期、設計者についての資料をお配りした。大喪後、仮停車場は鉄道省に移管されている。鉄道省が浅川駅・東浅川駅をどうするかについて検討する中で、新宿御苑の仮停車場については浅川駅に移築することが決まった。この部材が現高尾駅舎に利用されたと思われる。これらについては鉄道省が発行していた『大正天皇大喪記録』に記載されている。その後、8月には浅川駅の改築案が出ている。『大正天皇大喪記録』の編さん後の状況については、詳細は不明だが、東浅川に住む旧家の日記では、昭和2年に建前や仮に落成したことが記されている。そのため、移管後すぐに建築が始まったことが確認できる。完成した時期は大喪が昭和2年1月のため、昭和2年とされていたが、実際に開業したのは昭和3年1月22日であった。東京日日新聞(昭和3年1月23日付)、東京都公文書館の「浅川駅改築落成式における東京府知事の祝辞」(正式な祝辞ではなく草稿)にも記されている。設計者は古くは伊藤忠太といわれていたが、最近は曾田甚蔵であるという解説が多くなされている。当時の建築図面はまだ発見できていないため、設計者についての確証はない。曾田説は昭和57年～58年の雑誌「汎交通」に掲載された馬場氏の論文(先輩からの聞き取りに基く)にみられる。これ以降、曾田説が浸透してきた模様。曾田が設計者と言われる大社駅は高尾駅と似ている。現況については、屋根・入り口・ロビーの天井、内装・外装等に補修は施されていると思われるが、建築当時と大きくは変わらない。

その後出雲市に確認し、大社駅は曾田設計でないことが判明。

金子主査 (写真資料の説明) 外観はほぼ原型を残している。内部に関しては近代的な駅舎になっている。

相原会長 3月13日に現地を確認したことも含め、意見・質問があればお願いしたい。

- 津山委員 移築、改築、新築といくつか表現があったが、新宿御苑にあったものを移築してここに移したのか、新宿御苑にあったものを曾田甚蔵が設計したのか。浅川駅として新築とまでいえるのかどうか等疑問に感じた。
- 小林学芸員 浅川駅については明治時代の写真が絵葉書で残っている。新宿御苑の仮駅舎をそのまま移してきたのか、その部材を使って設計し直したのかは、図面が無いので確かな事はいえないが、後者と思われる。新宿御苑の設計図は鉄道省の大喪記録に残されている。
- 津山委員 曾田甚蔵が設計したのは新宿御苑の建物でなく、浅川（現高尾）駅舎を設計したとの考えでよいか。
- 小林学芸員 はい。ただ設計者を特定する当時の史料は確認できていない。公文書館、鉄道博物館には残されていない。
- 津山委員 大喪の際の写真と現駅舎を比較するとどうでしょうか。
- 小林学芸員 鉄道省の記録でしかわからない。この点も踏まえて確認作業を行いたい。
- 津山委員 昭和2年ではなく、昭和3年1月22日に造られたと断定できるのか。曾田甚蔵が新宿御苑にあったものを設計し、それを単に移築しただけであれば、先程の説明では言い過ぎではないか。
- 小林学芸員 先程の説明は、この土地に新しい駅舎が建てられた日付の確認、とご理解いただきたい。
- 中村委員 曾田は転用する部材を使って、設計は新しくしたのか。
- 小林学芸員 鉄道省の資料では、建築用の材料として使うという返答が残っているのみで、その後どう設計されたか、設計者等についてはっきりしたことは分からない。
- 中村委員 通常は設計が初めにあって材料を選択するが、この場合はそうではなく部材が制限されている中で誰かが設計を行った、と考えているということでしょうか。
- 小林学芸員 基本的にはそのように考えている。新しい資材が使われたかどうかは不明。
- 相原会長 大喪の礼に用いたものをそのまま移築したのかを確認することが必要ならば、宮内庁に史料が残っているのではないかと。もしくは、大喪の際の写真等で確認することから始めるのが筋ではないか。まったく新しい材料、設計も含めて新築ということになると、我々は大喪の際の建物をもとに高尾駅舎を造ったと理解しているため、（確認しないことには我々の認識と先程の説明とが）食い違ってくる。齟齬を是正するには宮内庁の資料を確認することが必要だと思う。私が思うに、明治22年の八王子駅と比較すると、外観がまったく変わったものを設計するという事はないので、大喪の礼で使ったものをある程度活かし利用したものが高尾駅舎だと思う。なにもなければ、高尾駅舎のような破風のあるこのような駅舎を建てるのはあり得ない。
- 金子主査 以前宮内庁に電話して確認したところ、鉄道省に移管したので資料があま

- りないという。こちらで再度宮内庁に確認したいと思う。
- 相原会長 高尾駅舎に限らず、地方では古い駅舎を文化財として保存しているところは多い。そういう意味では、高尾駅舎が大正天皇の大喪に用いられたか否かにかかわらずそれなりの時代を経ているということ、駅舎の外観も当時の状況をよく伝えているという意味で、文化財としての価値は評価できるのではないかとと思われる。
- 加藤委員 資料を見ると新宿御苑の仮停車場と東浅川の仮停車場、2つの仮停車場のものを1つの駅にするつもりではあったと思われるが、実際には東浅川停車場はそのまま残された。(現在は放火で焼失。)結局は新宿御苑の仮停車場を浅川駅に転用するというのが最終決定だったとすると、2つの駅舎を1つに設計し直すのであれば大変だが、一つの駅舎を移すのであれば、それほど大きな設計変更はできなかったのではないか。処分の決定が出た4月から浅川駅の改築案が出た8月まで時間がないことでもありますので、あまり大幅な改築ではなかったのではないか。『大正天皇大喪記録』には新宿御苑仮停車場の設計図は入っているのか。
- 小林学芸員 入っていない。新宿御苑の設計に関しては名前が出ているが、曾田甚蔵は出てこない。設計者については分からないが、同じような寺社風の設計を2年前に行った人物として曾田が考えられる。(駅舎移設の決定から設計までの)時間は短いですが、曾田であれば設計できたのではないか。
- 加藤委員 図面を比較すればどこが変わったかわかるのか。建築の専門家でないといけないか。
- 相原会長 外観を見ると、単なる駅舎であれば懸魚などはつかない。大喪の礼で使ったものをそれほど変えなかったのではないか。設計図を見なければわからないが。外観だけ見れば、一般建築とは全く異なる宮大工の建築。ある程度復元した形で建築しているとみられる。
- 池上委員 資料の写真に「昭和2年」とあるのはどういうことか。
- 金子主査 昭和2年につくられた絵葉書を基にした資料、ということ。
- 池上委員 昭和3年にできた、という話とはどういう関係があるのか。
- 金子主査 絵葉書には昭和2年、という記述がある。
- 小林学芸員 これに関しては今までの通例にならって、昭和2年と書いたかと。これは早急に訂正されるべきだと思う。
- 池上委員 東浅川仮停車場の建物は、駅舎に使われたのか。
- 小林学芸員 皇族の方が昭和2~3年にかけて年に何回か来ているので、そのまま残してあった。そういう中で新しく転用することはないと思われる。
- 池上委員 駅舎として使われていたということか。
- 小林学芸員 はい。
- 池上委員 現高尾駅舎と東浅川駅舎の関係、建物の共通性等はどうなっているのか。

- 小林学芸員 東浅川の駅舎と新宿御苑の仮駅舎は似たものを建てている。
- 池上委員 それは写真も残っているのか。
- 小林学芸員 東浅川は写真が残っている。設計図も両駅舎のものが鉄道省の報告書に残っている。
- 池上委員 それと現高尾駅舎を比べて何が言えるのか。
- 小林学芸員 つくりとしては似ている。
- 池上委員 相原先生が仰ったように、新宿御苑の仮駐車場の形は大きく改変されずに浅川駅舎として作られた可能性は高いのか。
- 小林学芸員 基本的には、写真での比較、設計の時期、建築に要する期間を考え合わせれば、全く新しいものを造るのは難しかったのではないかと考える。
- 相原会長 東京オリンピック（昭和 39 年）の際の冊子にはメイン会場となった東浅川駅の正面の写真があるが、現高尾駅舎と酷似している。ホーム側から見ると改変はあるが、北側の外観はほぼ同じ構造。
- 金子主査 本日は文化財的価値について議論していただけるとありがたい。
- 相原会長 本題は駅舎に文化財的価値があるか否か。残された現高尾駅舎の歴史と数少ない木造建築としての文化財的価値を見いだせるか、論議をお願いしたい。今日も含めて何度か議論をするのか。
- 田島課長 文化財的価値については今回で決定していただきたい。高尾駅舎についての調査は今後も継続していく。進捗によって報告したりご意見をいただいたりして進めたい。
- 相原会長 文化財的な価値は、駅舎がどうこうというよりも、現在残された建築文化を八王子または多摩地域として残すべきものか、という観点から論議すればよろしいのでは。
- 菅原委員 建物自体の改修はされているのか。改修の歴史はあるのか。現在の写真と見比べると異なる所がある。
- 金子主査 トイレや飲食店の設置等や貴賓室を取り壊した等の話はあるが、詳細な日付については把握していない。
- 中村委員 都内でこの時代の駅舎で残っているものはあるのか。
- 金子主査 把握しているところでは、小田急線・向ヶ丘遊園駅の駅舎が昭和初期の建物。国立の駅舎は取り壊されて保存という形をとっている。向ヶ丘遊園駅については小田原急行時代の紋章も残っている。
- 中村委員 昭和初期の駅舎であれば保存という方向なのか。移築という付加価値を条件としてとらえての価値なのか。歴史的な部分の解明がまだなのであれば、移築の状況がどうであれ。昭和初期の駅舎が数少ないという事で議論してよいのか。
- 相原会長 大正天皇の大葬に使ったことが、ある程度説得性を持っているので、それを抜いてもなおかつ文化財の価値があるのだという事ならそれでもよいが、

JR を納得させなければならない。立川以東の駅舎を改築しており、残っているのは日野、豊田、高尾くらい。残すべき駅舎なんだという事を納得してもらえよう進言を市が持っていないとまずいと思う。東京駅が復元された今の時期を逃してはならないと思う。

岩崎委員 論点は二つあるのではないか。ひとつは建築史的な価値があるのかどうか。建築史的にはあまり価値がないけれども、八王子市の近代史を特徴づける意味があると先生方が判断していただければ、それで残す価値が別に発生すると思う。会長が言うように JR に進言するのであれば、八王子市の近代史にとって価値があるだけでなく、建物が持っている意匠や建築としての価値が他にはない稀なる特質を持つという事が説明できないと JR に残してもらおうという事は非常に難しいのではないかと思う。もう少し建築史的にどうなのかという事を専門の先生に調査していただく事が必要と思われる。市の文化財という事であれば、市民のあゆみがこの駅舎から語られるという事であれば別の判断が出来ると思う。

相原会長 八王子市が文化財として価値があるというスタンス・見解が基本になると思う。八王子という自治体が進言するという事で、八王子市としての考え方は、八王子の中の地域を代表する近代史の中で、どうしても保存をするべきであるという姿勢が基本になると思う。

田島課長 JR の協力を得るという事が非常に難しい現状がある。JR の協力を得るために文化財的価値があるという意見がいただければ、これにもとづき JR に働きかけられる。その後、JR に内部など様々な資料の提供を受け、鉄道省や宮内省といったところの調査を進めて行こうと思っていた。本来は岩橋先生の仰った形できちんとした論点をうちの方で確認した上で、皆さんに協議いただいてというのが本筋だと思うが、国立駅の例もあるので、そうした事には高尾駅はしたくないというような中で、このような手法をとるという事をご理解いただきたい。

津山委員 これから対 JR という事で対応していくのならば、今回の説明では大正天皇の仮停車場を移築したという「枕言葉」が非常に薄れてしまう。たとえ部材のみを移築したとしても、移築という言葉は残して、新築という言葉は使わない方がよいのではないか。大正天皇の仮停車場をここに持ってきたんだという重要性こそ訴えるべきではないか。

加藤委員 大社駅と（現高尾駅舎は）ほとんど同時期のもので、数年の違いでこちらは重要文化財に指定されている。ひょっとすると設計者が同じかもしれないというのは攻めどころとしてはいいのではないか。大社駅は廃線になって使われておりませんが、高尾の場合は現役として使われているということも価値があると思います。よって、大社駅と比較する事で高尾がそれに匹敵するのであれば、文化財的な価値が高まるのではないかと思う。

- 新藤主任 私が入ったときには旧東浅川宮廷駅が現存しており、社会教育施設として利用されていた。その時のイメージは高尾駅と似ているなという印象を受けた。当時、放火された直後に建築家の先生に見てもらったところ、建築史上の価値はあまりないのではとのご判断だった。逆に国立駅などは、工法も含めて価値があるようだ。津山先生のおっしゃるようにより新築といってしまうのは良くないのではないかと感じた。あやふやで何もわからない、というのも良くない。
- 加藤委員 大喪の時の古い写真を見せていただいたが、破風が一重ですが現在は二重になっていて、印象が大分変わっていると思った。小さい破風だけであったのが、大きい破風をつけ、駅でたくさんの乗降客をさばくため、この部分を大きくしたのではないか。その部分を曾田さんが大喪に使用した時から公共の駅にするためにどう変えたかというところで、またそれが今使われているというところに高尾駅の価値があるのではないかと思う。
- 新藤主任 課長が述べたように研究はしなければならないが、この建物をなんとか残せる一番良い方向に持って行ってもらいたいと思う。
- 野嶋委員 私も出来る事ならば残して、文化財に出来れば一番いいと思う。無くなった陵南会館とある意味で対となる建物で、東浅川駅という皇族しか使えない駅に対し、庶民の多摩御陵参拝のための駅舎なのだろうと思う。多摩御陵参拝という部分で、戦前からの日本の大きい流れがある。そういう意味で東浅川駅と対に考えて、話をまとめていったらどうかと思う。庶民が使うという事が大事な視点ではないかと思う。
- 相原会長 いろいろな角度からつめていって、一点だけでなく三点ないし五点挙げて、列挙して明文を作って欲しい。建築学的な意味、戦災にあった八王子市の中で戦前の建物として現存する価値のあるものだという視点、庶民が使っているという視点、焼失した宮廷駅とユニットだったうちのひとつだという関係性などを列挙して明文化したらどうかと思う。建築学的なところというとなかなか難しい。そういう事になると主張が弱くなるので建築学上貴重だというような判断が無いというと、文化財としての価値が無いのかという事になりかねない。
- 新藤主任 八王子の文化財として指定してもらおうというよりも、国の登録文化財のような考え方がある。そういう歴史的な来歴も含め価値を考えていただければと思います。
- 相原会長 一般的な指定と違い相手は JR であるため、都でも何でも八王子市の指定でなくてもいいじゃないか、国や都がやればいいじゃないかという話が出てくるだろう。では今まで都にそういった声が上がってきたかという、上がっていないという反論が出てきて、つぶされてしまう。まず八王子が価値を見出すことが必要では。それくらいでないとい JR を説得できない。

文化財保護委員会としては、将来にわたって文化財としての保存をぜひ進めていきたい、という意味を確認したい。(異議なし)では、そういうことでよろしくお願ひしたい。

## (2) 甲州街道イチョウ並木について

新藤主任 甲州街道の追分から高尾駅までの約4kmに植わっているイチョウ並木については市の天然記念物に指定されている。これまでも公的機関には設計変更や若木の植え替えという形で協力をいただいていた。現在は763本となっている。しかし、民間では新しい車の出入口を設ける「新規の切り下げ」が行われており、問題があった。これまでは幸いにもイチョウの数に影響を及ぼすことはなかったが、そうも言っていられなくなってきた。イチョウ並木は市の天然記念物だが、管理は国土交通省・相武国土の日野事務所が行っている。文化財課としては、最低限本数を減らさないようお願いしてきた。今回の事例については広い車の出入口を取り、近隣の場所に植え替えるスペースがないため、やむなく1本を伐採ということになった。ご理解と追認をお願いしたい。基本的には国交省も伐採を認めていないが、今回についてはやむを得ないと考えているようだ。文化財課としては並木としての景観が残されればやむを得ないとも考えられるが、このまま伐採が続かないように国交省の担当者とは話し合っている。

相原会長 本日、現地を見てきた。既に工事は始まっている。相対的な景観が損なわれないという観点から検討したい。伐採が野放図にされては困る。

菅原委員 3例目ということは、過去には事業者側の案が通ったのか。

新藤主任 話をするうちに諦めてもらった例はある。しかし損害賠償を請求されると難しい。所有者である国交省に維持管理を含めてやってもらっているのが現状。国交省から剪定費用を請求されたらこちらは厳しいので、持ちつ持たれつ、というのが正直なところ。

菅原委員 今回で伐採は3回目ということか。

新藤主任 今回は1本本数が減るという意味で、伐採する、という表現を用いている。追分では伐採してしまうものの、別の場所に若木が植わっており、本数としては同じとなった、ということだった。今回は減る。

神立委員 保護審議会で切るな、といえ切らないのか。

新藤主任 それは難しい。

神立委員 保護審議会としては、なるべく切らないでほしいとお願いするしかない。

新藤主任 天然記念物指定時には何本あったかは数えていない。平成5年3月の調査では768本。その後、都の事業で3本減るところであったが、交渉で隣接



地に移植してもらった。ただし、並木からはずれ所管が東京都に移ったので 3 本減った。また、市の事業で散田町のアンダーパスを作った際に 2 本隣接地に移植してもらったが、計算上は 2 本減った。また、高尾警察署ができるときにもかなり減る可能性があったが、話し合いにより 1 本も減らさずに済んだ。公共事業の場合にはなんとか協力をいただいている。

加藤委員 追分の歩道橋建設の際はどうなったのか。

新藤主任 切ってしまったが、若木を全く異なる場所に同数植えた。イチョウが大きくなりすぎると、警察から安全面で指摘される。西八王子駅前の改良工事の際にはそれで揉めた。最終的には西八王子駅側のローソン前に若木を植えた。国交省と調整しながら長い目で見て景観を保つ、というところが落としどころかと思う。

相原会長 イチョウ並木の景観を損なわないことが重要。今回はやむを得ない。

## 報告事項

### (1) 平成 26 年度予算と事業について

金子主査 平成 26 年度文化財保護関連の予算概要について。保護費全体では 5757 万 3000 円。文化財保護普及費、文化財保存活用費、史跡八王子城跡保存整備、文化財関連維持管理、伝統芸能の保存・伝承に分けられる。……。

神立委員 八王子城跡保存整備については国から補助金が出ていると思うが、どういう割合になっているか。国のほうが割合が大きいのか。

新藤主任 はい。通常の維持管理は我々で行うが、保存整備の経費の 50%は国に補助してもらっている。4 分の 1 は東京都に出してもらっている。市は 4 分の 1 で済んでいる。説明したのはこれらすべて含めての金額。維持管理は補助対象にならない。

神立委員 博物館の計画はこの部分ではないのか。どこかに付いているのか。

田島課長 郷土資料館関連経費に入るが、今年度については予算はついていない。

神立委員 ということは、計画をしないということか。

田島課長 調査研究等、費用の掛からないものを行う予定。

相原会長 特殊な新規事業はまた別。

加藤委員 滝山城、片倉城はどうなっているのか。片倉城は看板が傷んでいる。八王子城以外にも目配りをお願いしたい。

新藤主任 滝山城は、敷地の 7 割を都が公園用地として買収している。こちらは現状変更の許認可を行うという立場ではあるが、事業者に「進めてください」という立場で行っている。片倉城については市の公園課の所管。都指定の史跡だが、文化財課としては機会があれば、という立場。

相原会長 八王子城跡ばかりが突出しているイメージがある。

津山委員 片倉城は整備していないのか。

新藤主任 公園として整備している。片倉城を整備する、という話ではない。駐車場などの付帯施設を整備している。

## その他

新藤主任 監査事務局から指摘が入ったのでお忙しいところ申し訳ないが、積極的な参加をお願いしたい。

## 閉会